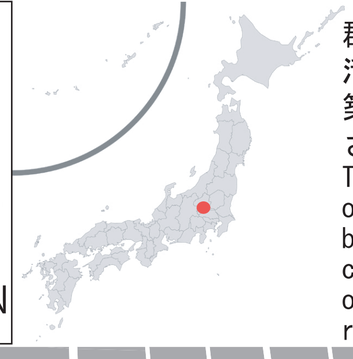
世界の家・街並み

群馬 音楽センター

群馬 GUNMA JAPAN



群馬県高崎市は、古くから交通の要所として文化の交流も盛んな土地柄で、市民オーケストラの成立とともに音楽活動の中心として市民の熱望により群馬音楽センターは建設されました。
築後 50 年を経過し、建替えも検討されましたが、文化の継承という視点から再び市民運動によりさらに末長く利用されるとともに、城址地区の街並み景観も継承、保存されることになりました。

Takasaki city, Gunma prefecture has been known as one of the prosperous cities for its important point for exchange of culture for many years. As well as the establishment of Citizen Orchestra, The Gunma Music Center (Hall) was built by citizen's ardent interest and wish as a center of classical music activities. After 50 years of construction, The Gunma Music Center (Hall) was once considered for demolition. However by civic movement's requests of continuous use, the city decided to preserve the original structure as well as the as the preservation of the ruined castle area as important cultural and historical monuments in the city.

水上勝之（Mizukami Katsuyuki）

群馬音楽センター　—市民運動と景観保存—

1961年に開館した「群馬音楽センター」は群馬交響楽団の前身である高崎市民オーケストラの結成から群響結成までのドラマを描いた映画「ここに泉あり」をきっかけに建設運動が始まりました。建設に当たっては、チェコ出身の建築家アントニン・レーモンドが設計し、市民運動により多くの浄財が集められて完成しました。
2008年3月に高崎市が群馬音楽センターの建替えを含む整備計画を検討しているという報道があり、同年5月10日（レーモンド生誕120年の日）に「群馬音楽センターを愛する会」設立。その後の市民運動により、2011年7月に高崎市長により、音楽センターは「市民の心の文化財」であり今後広く市民に問いかけていきたいと発言されました。

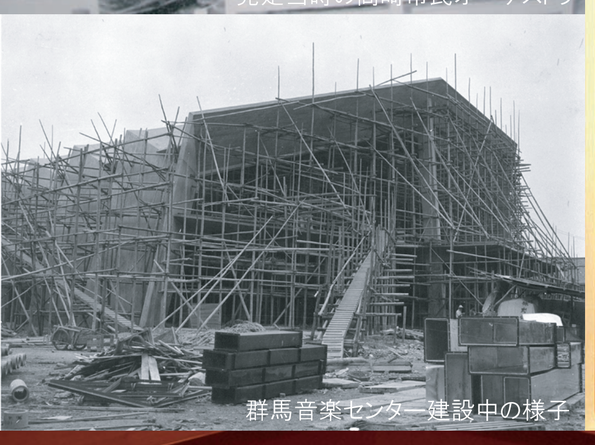
「群馬音楽センターを愛する会」代表・水上勝之

群馬音楽センター概要

所在地	群馬県高崎市高松町28番地
設　計	アントニン・レーモンド
家具設計	ノエミ・レーモンド
構造設計	岡本　剛
音響設計	三木　韶
構　造	RC構造
階　数	地下1階、地上2階
延床面積	5,936㎡
施　工	井上工業
竣　工	1961年

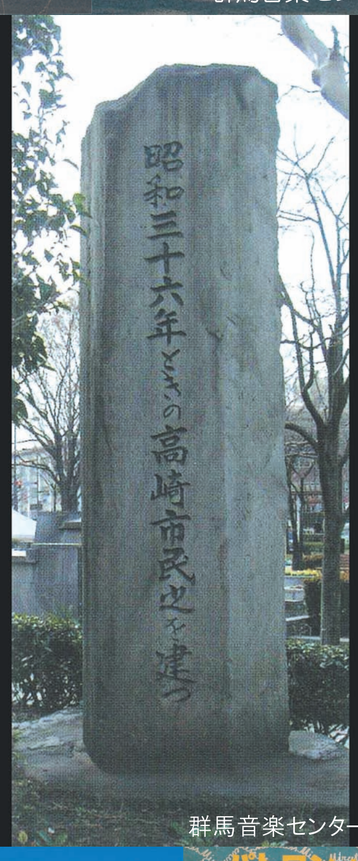
群馬音楽センター外観

発足当時の高崎市民オーケストラ



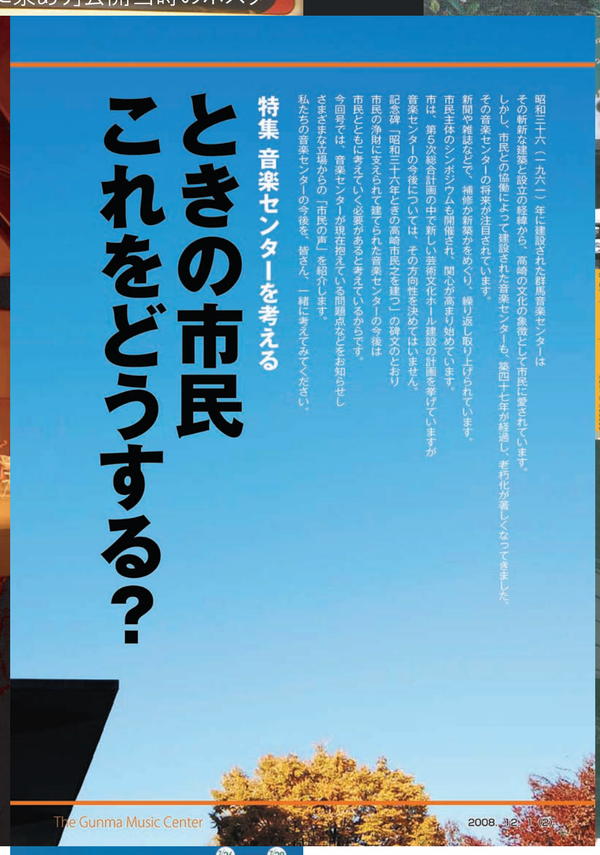
群馬音楽センター建設中の様子

「ここに泉あり」公開当時のポスター



群馬音楽センター前の石碑

群馬音楽センターステージ



「群馬音楽センターを愛する会」缶バッチ

群馬音楽センターの開館50年の歴史とこれから

1946年 (S21年)	第1回高崎市民オーケストラ演奏会
1955年 (S30年)	映画「ここに泉あり」封切り 構想から足かけ4年　製作費6,000万円
1956年 (S31年)	6月1日 「音楽モデル県」として文部省から指定 7月 「群馬音楽センター建設促進委員会」結成
1957年 (S32年)	募金活動始まる　募金目標額約7000万円
1959年 (S34年)	11月 「群馬音楽センター」着工
1961年 (S36年)	「群馬音楽センター」完成 7月18日 市制60周年 落成記念式典 「昭和三十六年ときの高崎市民之を建つ」の碑 地方文化全体にとっての大きな記念碑となった
1998年 (H10年)	9月19日-11月3日 パトロンと芸術家-井上房一郎の世界- 群馬音楽センターとアントニン・レーモンド展 11月 アントニン・レーモンド ギャラリーを 群馬音楽センター内に開設
2000年 (H12年)	1月26日-3月26日 神奈川県立近代美術館 文化遺産としてのモダニズム建築展 DOCOMOMO20選
2007年 (H19年)	9月15日-10月21日 神奈川県立近代美術館 アントニン＆ノエミ・レーモンド展 建築と暮らしの手作りモダン
2008年 (H20年)	3月 高崎市が群馬音楽センターの建て替えを含む 整備計画を検討しているという報道 4月5日-5月25日 高崎市美術館、高崎哲学堂、群馬音楽センターの3会場で アントニン＆ノエミ・レーモンド展 建築と暮らしの手作りモダン 5月10日(レーモンド生誕120年の日) 展覧会記念講演会 「ノエミ・レーモンドの仕事」開催 「群馬音楽センターを愛する会」設立 6月29日 「第1回愛する会」開催 高崎哲学堂にて 12月1日 広報高崎 ときの市民これをどうする？
2009年 (H21年)	8月 「群馬音楽センターを愛する会」Tシャツ作成 12月15日 広報高崎 平成の「ときの市民」これまでの動き 芸術・文化ホールを考える
2010年 (H22年)	2月 「ときの高崎市長これを残す宣言」 3月25日 「群馬音楽センター」の保存と活用についての要望書 高崎市へ提出 4月28日 高崎スプリングフェスティバルにて佐藤晃一氏 デザインのロゴマークの缶バッチ製作発表
2011年 (H23年)	7月25日,26日,28日 群馬音楽センター開館50周年記念 連続シンポジウム開催 8月15日 広報高崎 群馬音楽センターは「心の文化財」

製作者：JIA群馬地域会 水上勝之